

「研究データ利活用協議会」令和元年度の活動方針

令和元年 9 月 30 日
研究データ利活用協議会

1. 令和元年度の活動方針

令和元年度も平成 30 年度に掲げた以下の方針を踏襲し活動する。

【「研究データ利活用協議会」令和元年度の活動方針】

1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

2. 令和元年度の活動計画

2.1. 公開イベントの開催

活動方針「1.」を受けて、機関会員の自発的な取り組みにより公開イベントを開催する。たとえば、次のようなイベントが考えられる。

- ・ RDUF 公開シンポジウム（RDUF 小委員会成果報告会等）
- ・ Japan Open Science Summit 2020（JOSS2020）への協力
- ・ その他（講演会、研究会等）

上記の「研究データ利活用協議会」固有のイベントに加えて、他のイベントとの共催や後援、小委員会の合同開催、新たなテーマでのイベントの開催についても積極的に検討する。その結果として、小委員会の新規設立といった効果を期待する。これらにより、RDUF のコミュニティの拡張が見込まれる。

2.2. 小委員会における検討

活動方針「2.」を受けて、平成 30 年度に設置した小委員会における検討を継続する。企画委員会は小委員会からの申請を受けて、審査のうえ延長もしくは再設置の承認を検討す

る。

- ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク (Japan DAta Repository Network : JDARN)
- リサーチデータサイテーション (Research Data Citation : RDC)
- 研究データライセンス

2.3. 普及・広報の強化

活動方針「3.」を受けて、普及・広報の強化を図る。具体的には会員数の増加、会員の多様化、RDUF のプレゼンス向上を図る。そのため、次の方策を講じる。

- ・ 前述の「2.1 公開イベントの開催」
- ・ RDUF web サイトおよび各種 SNS を用いた情報発信
- ・ RDUF 小委員会における成果物および RDUF 関係資料の web サイト上での公表
- ・ 成果物の積極的な利活用
- ・ web サイトの再構築
- ・ 各種会議での発表

さらに企画委員において、オープンサイエンスおよび研究データ利活用について各研究分野および組織内における普及方法、RDUF の広報に関して積極的に検討することとする。また、海外の重要文書の翻訳プロジェクトの立ち上げも検討する。

3. 令和元年度の年間スケジュール

令和元度のスケジュール案を表に示す。

表. 年間スケジュール概要

	1Q (7-9 月)	2Q (10-12 月)	3Q (1-3 月)
企画委員会	(9/13) ☆	(候補) ☆	(候補) ☆
公開シンポジウム 総会			☆ ☆
小委員会 ・ JDARN ・ RDC ・ 研究データライ センス	→	→	→
普及・広報			→

－ 以 上 －